

# ご説明資料

令和2年11月

# 馬毛島に自衛隊施設を整備する必要性

# 現 状

## 訓練施設

**全国的に、自衛隊の訓練施設は十分にあるわけではありません。**

○自衛隊は国民の生命と平和な暮らしを守り抜くため、訓練を十分に行う必要があります。

○我が国の国土は狭隘（あい）であり、既存の訓練施設についても様々な制約があります。

→各部隊は、国外の訓練場の活用を含む様々な工夫を行い、訓練を実施しています。

このような中、より実践的な訓練を実施するため、馬毛島に新たな訓練施設を整備することは、我が国の防衛に万全を期すために非常に意義のある取組です。

## 後方支援（補給）施設

**あらゆる事態に対応するため、後方支援（補給）施設を最適な場所に設置する必要があります。**

○厳しい安全保障環境の中、あらゆる事態にシームレスに対応するため、部隊による継続的な活動が重要です。

○大規模災害等の事態の各種事態に応じて、臨機応変に後方支援拠点を設ける必要があります。

○災害時に民間施設を後方支援拠点に設定し、活動した事例もあります。

→この地域に自衛隊施設があれば、より臨機かつ長期にわたって継続的な活動を行うことができます。

## なぜ馬毛島なのか？

### “島”であり住宅地に隣接していない環境

- 地域の方々に与える騒音等の影響を限定できます。
  - 周囲を海に取り囲まれている島の特性から、島嶼（しょ）防衛に資する訓練の実施が可能になります。
- 我が国の防衛のために効果の高い訓練を、環境負荷を抑えつつ実施できます。

### 訓練施設、飛行場施設及び港湾施設が一体となった自衛隊施設の整備が可能

- 訓練施設、飛行場施設及び港湾施設を1つの場所に設置できる広さがあります。
  - 陸海空自衛隊が一体となって活動する「統合運用」の観点からも、利用価値の高い施設となります。
- このような施設を一つ整備することは、複数の防衛施設を整備することに匹敵するとも言えます。

### 南西諸島に所在

- 厳しい安全保障環境を踏まえ、南西地域の防衛体制を強化しています。
  - 与那国島、石垣島、宮古島、奄美大島等への部隊配備を進めていますが、一定以上の規模の訓練施設及び後方支援（補給）施設を新たに整備できていません。
- 部隊配備に加え、訓練や後方支援を実施できる環境を整備することで、この地域の防衛体制はより強固なものとなります。

# 自衛隊施設整備の現状

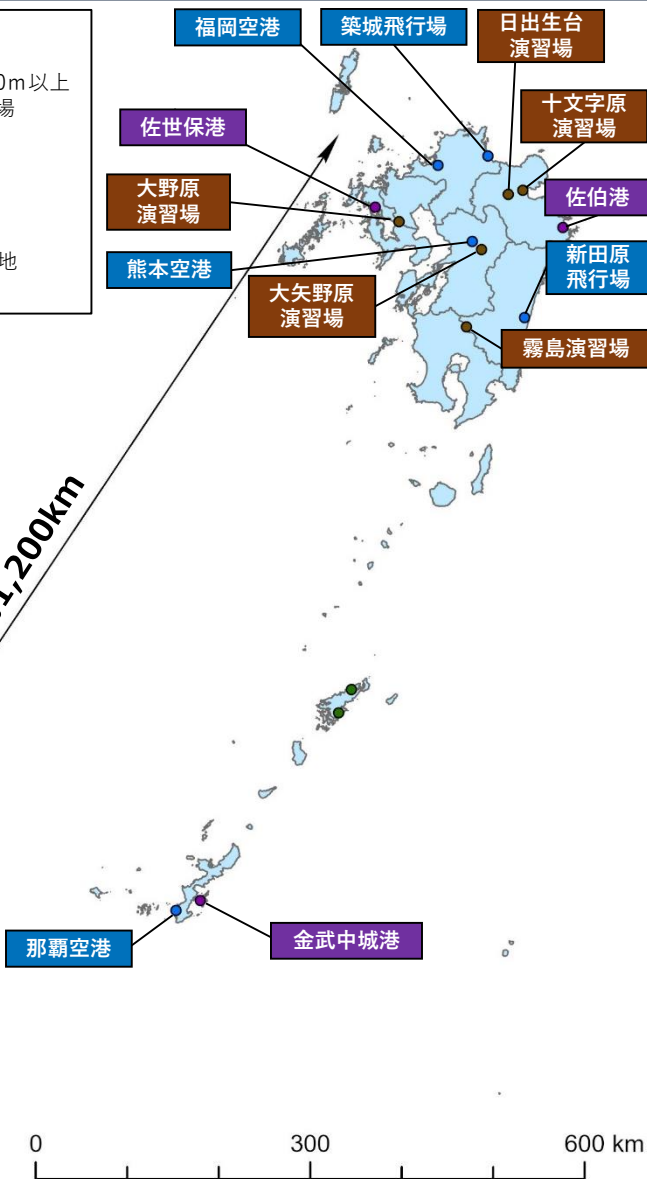
縮尺が同じ地図を用いて本州・四国と南西地域を比較

## 南西地域に所在する自衛隊施設等（2020年9月時点）

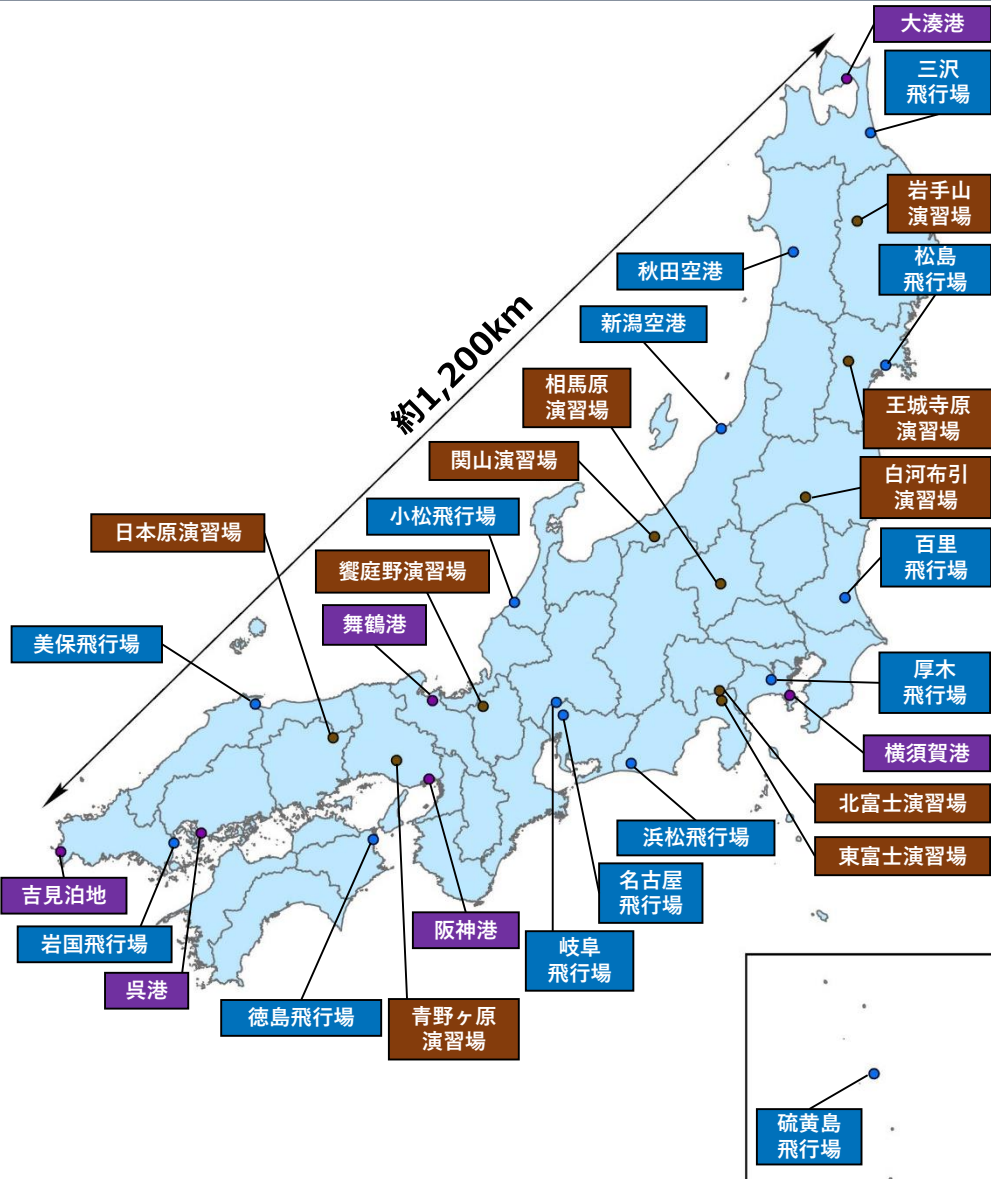
凡例：

- 自衛隊機が使用している2,400m以上の滑走路が設置されている飛行場
- 自衛艦の定係港（船籍港）
- 大演習場・中演習場
- 近年新たに配置した駐・分屯地 ※南西地域に限る（予定含む）

約1,200km



## 本州・四国に所在する自衛隊施設等（2020年9月時点）



# 馬毛島における自衛隊の訓練計画

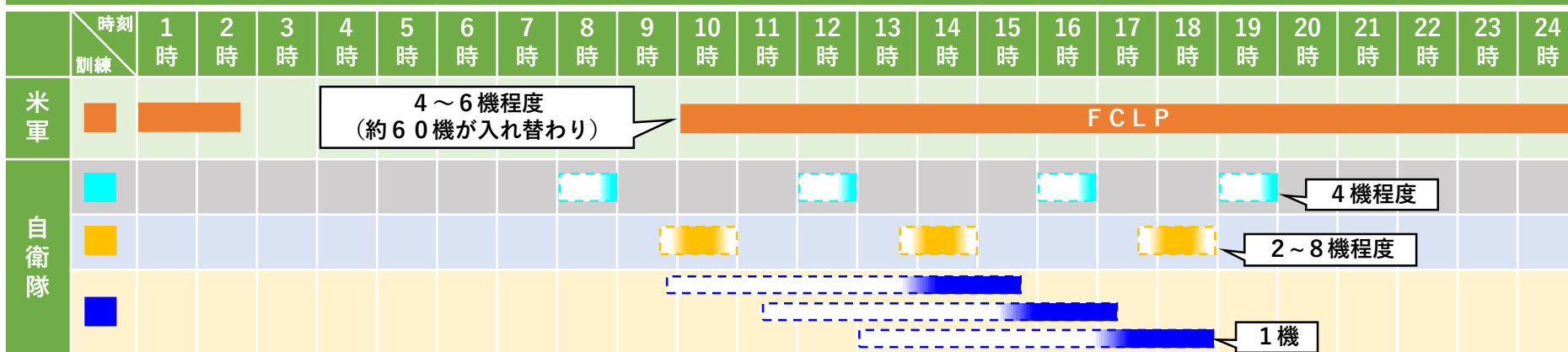
# 自衛隊の訓練時間スケジュール（イメージ）

## 前提

○自衛隊の訓練の中でも航空機騒音が比較的大きな**連続離着陸訓練**及び**模擬艦艇発着艦訓練**に着目し、1日の訓練時間のイメージ※を作成し、米軍のFCLPと比較したものです。

※自衛隊馬毛島基地（仮称）における訓練については、現在、各自衛隊において、実施時期、期間、規模、内容等を検討しているところです。そのため、本資料は現時点での連続離着陸訓練及び模擬艦艇発着艦訓練の所要の見込みを一例として示すものとなっております。細部については、今後、各自衛隊の中で検討されます。

## 1日当たりの訓練時間スケジュール（イメージ）



※FCLP実施中は自衛隊の訓練を実施しません。自衛隊の訓練は、異なる訓練を同日に実施することもあります。

※白抜き箇所は、馬毛島周辺以外での飛行や訓練を示しています。

### ■ 連続離着陸訓練（航空自衛隊）

・連続離着陸を実施する時間は1回当たり数十分程度です。（少なくとも深夜における訓練は実施せず）



### ■ 模擬艦艇発着艦訓練（航空自衛隊）

・発着艦訓練を実施する時間は1回当たり1時間程度です。（少なくとも深夜における訓練は実施せず）



### ■ 連続離着陸訓練（海上自衛隊）

・連続離着陸を実施する時間は1回当たり2時間程度です。（少なくとも深夜における訓練は実施せず）



### ■ FCLP

・日中から深夜にかけて実施

➡自衛隊の訓練（連続離着陸訓練、模擬艦艇発着艦訓練）では、米軍のFCLPと比較し、1日当たりの訓練時間も短く、飛行回数も少なくなります。

# 自衛隊の月間の訓練スケジュール（イメージ）

## 前提

○自衛隊の訓練の中でも航空機騒音が比較的大きな**連続離着陸訓練**及び**模擬艦艇発着艦訓練**に着目し、月間の訓練スケジュールのイメージ※を作成したものです。

※自衛隊馬毛島基地（仮称）における訓練については、現在、各自衛隊において、実施時期、期間、規模、内容等を検討しているところです。そのため、本資料は現時点での連続離着陸訓練及び模擬艦艇発着艦訓練の所要の見込みを一例として示すものとなっております。細部については、今後、各自衛隊の中で検討されます。

※FCLP実施中は自衛隊の訓練を実施しません。下記の訓練に加えて、連続離着陸訓練及び模擬艦艇発着艦訓練以外の訓練を行うこともあります。

### 機動展開訓練が行われる月(4か月/年)の月間スケジュール(イメージ)

月	火	水	木	金	土	日
1 ●	2 ●●	3	4	5	6	7
8 ●	9 ●	10 ●●	11	12 ●	13	14
15 ●●	16 ●●	17 ●●	18 ●	19 ●●	20	21
22 ●●	23 ●●	24 ●●	25 ●●	26	27	28
29	30	31	訓練実施日※機動展開訓練除く →15日/月			

### 機動展開訓練が行われない月(6か月/年)の月間スケジュール(イメージ)

月	火	水	木	金	土	日
1 ●	2 ●●	3	4	5	6	7
8 ●	9 ●	10 ●●	11	12	13	14
15 ●	16 ●●	17	18	19	20	21
22 ●	23 ●	24 ●●	25	26	27	28
29	30 ●	31	訓練実施日 →11日/月			

※演習の状況により、土日に訓練を実施する可能性もあります。

- **連続離着陸訓練（航空自衛隊）**
  - 主に**戦闘機**を用いて実施
  - 機動展開訓練に合わせて四半期（3か月）ごとを基準**に訓練を実施
  - 年間約50日**



- **連続離着陸訓練（海上自衛隊）**
  - 主に**哨戒機**を用いて実施
  - 年間を通じて**訓練を実施
  - 年間約50日**



- **模擬艦艇発着艦訓練（航空自衛隊）**
  - F-35B戦闘機**を用いて実施
  - 年間を通じて**訓練を実施
  - 年間約100日**



- ↔ **機動展開訓練（航空自衛隊）**
  - 四半期（3か月）ごとを基準に**約2、3週間で訓練を実施





# 連続離着陸訓練・模擬艦艇発着艦訓練・FCLPに係る主な訓練範囲

## 連続離着陸訓練

### 航空自衛隊

○主にF-35、F-15、F-2の戦闘機が、FCLPと同程度の範囲でタッチアンドゴーの訓練を実施。

※地元への影響に配慮した飛行経路も検討

### 海上自衛隊

○主にP-1、P-3Cの哨戒機が、馬毛島を中心とした半径5海里(約9km)程度の範囲でタッチアンドゴーの訓練を実施。

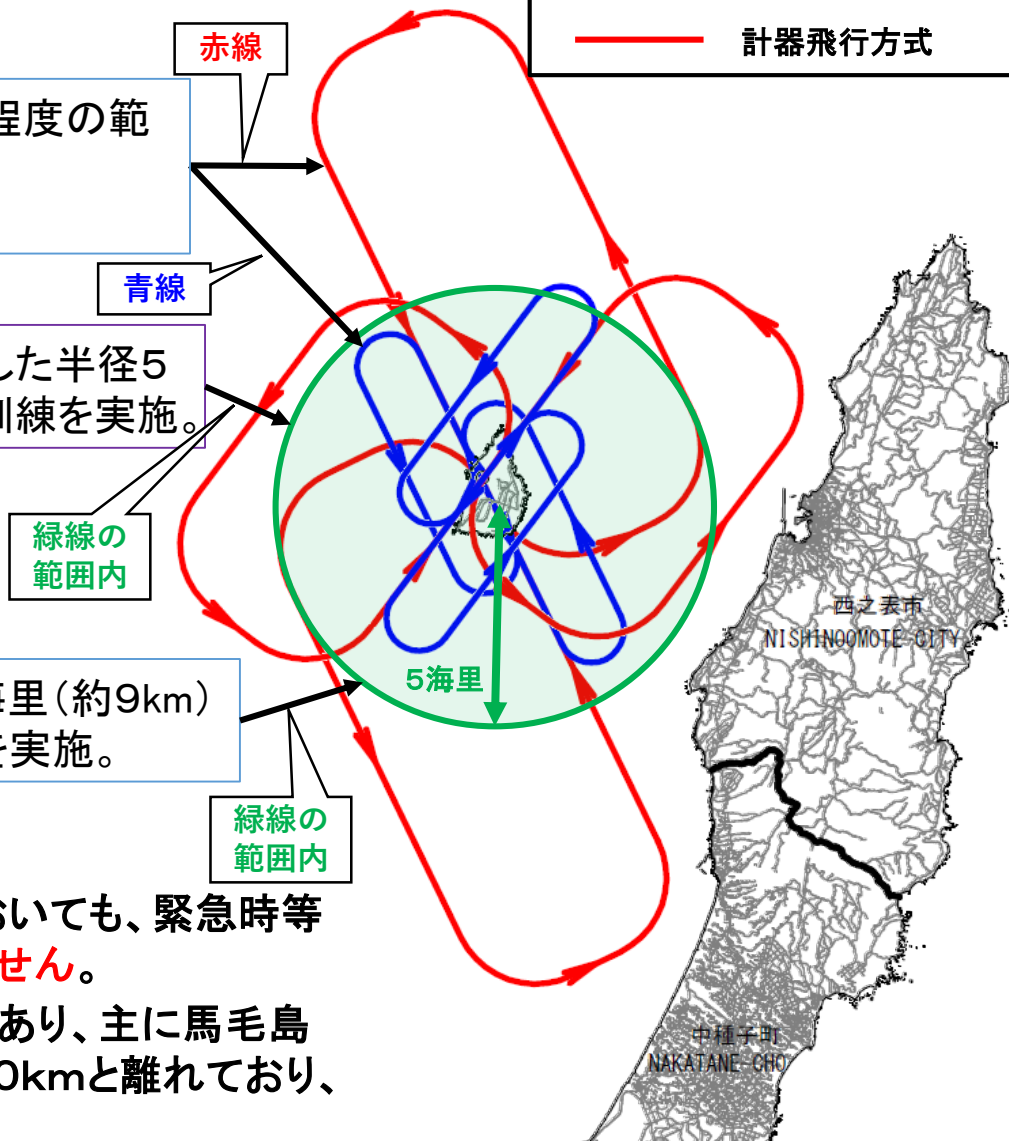
## 模擬艦艇発着艦訓練

### 航空自衛隊

○F-35B戦闘機が、馬毛島を中心とした半径5海里(約9km)程度の範囲で、短距離離陸や垂直着陸の訓練を実施。

### 【FCLP飛行経路】

- 有視界飛行方式
- 計器飛行方式



➡米軍が行うFCLPと同様に、自衛隊の訓練においても、緊急時等を除き**種子島上空を飛行経路とすることはありません。**

➡特に大きな騒音が発生するのは離着陸の際であり、主に馬毛島周辺での騒音となります。馬毛島と種子島は約10kmと離れており、**航空機騒音も限定されます。**

# 訓練の内容・所要日数（見込み） ※航空機騒音が発生しない訓練や航空機騒音の小さなものは赤枠内に記載

## 連続離着陸訓練

航空機が連続して滑走路の離着陸を行う訓練のことであり、いわゆるタッチアンドゴーと呼ばれる動作を繰り返し行う訓練

(空自:年間約50日、機動展開訓練に併せて実施)

(海自:年間約50日、定期的に実施)



(F-35,F-15,F-2等)

## 模擬艦艇発着艦訓練



(F-35B)

「いずも」型護衛艦クラスの甲板及び艦橋を模擬した施設において、F-35Bの短距離離陸・垂直着陸の訓練を行い、操縦士、整備員、航空管制要員等を航空機の運用に習熟させるための訓練

(週約2~3日、年間約100日)

## 機動展開訓練



(F-35,F-15,F-2,KC-767,C-2等)

航空機、関連器材等を展開先となる場所に移動させる訓練

(四半期ごとに約2、3週間、連続離着陸訓練も併せて実施)

## 離着水訓練及び救難訓練

海上においても離着水できる救難飛行艇US-2を用いた離着水訓練及び救難訓練

(1週間に1回程度、年間約20~50日)

※滞在日程をカウントしていますが、実際に離着水訓練をする時間は限定的です。



(US-2)

## 不整地着陸訓練



(C-130)

航空機が未舗装の滑走路に離着陸する訓練であり、現時点では、本訓練において、航空自衛隊のC-130輸送機の使用を想定

(月約1日、年間約10日)

## エアクション艇操縦訓練



陸上及びその沿岸部において、LCCと呼ばれるエアクション艇の操縦訓練

(約1日を年4回、年間約4日)

## 水陸両用訓練



(AAV,エアクション艇等)

離島防衛を想定し、ポートや水陸両用車等を用いて着上陸を行う訓練

(約5日を年2回、年間約10日)

## 救命生存訓練



(7~9月の間で2、3回、年間約10日)

航空機に緊急事態が発生し、機体が海上に不時着したり、搭乗員が落下傘で海上に降下した場合を想定し、搭乗員が救助されるまでの間生存する方法を訓練

## ヘリコプター等からの展開訓練



(CH-47,V-22)

回転翼機等を用いて部隊を迅速に目的地へ展開する訓練

(約3、4日を年1回)

## 空挺降投下訓練



航空機から、落下傘を用いて、地上の目的場所へ人員の降下及び物品等の投下を行う訓練

(約3、4日を年1回)

## 災害対処訓練



(UH-60)

ヘリコプターによる人命救助や航空機による物資輸送など、災害対処能力の向上を図るための訓練

(9月頃に1回、年間約3日)

## PAC-3機動展開訓練



展開先となり得る場所において、PAC-3の迅速かつ円滑な展開ができるよう、器材及び人員の移動や器材展開の手順を確認する訓練

(約5日を年2回、年間約10日)

※自衛隊馬毛島基地(仮称)における訓練については、現在、各自衛隊において、実施時期、期間、規模、内容等を検討しているところです。そのため、本資料は、過去の類似の場所・内容の訓練における実績等に基づき、現時点での主な自衛隊の訓練所要の見込みを示すものとなっております。細部については、今後、各自衛隊の中で検討されます。また、上記以外の装備品を使用した訓練を行う可能性があります。

※FCLP実施中は自衛隊の訓練を実施しません。

※上記の訓練について、異なる訓練を同日に実施することもあります。

# 自衛隊の訓練について

## 訓練準備

- 自衛隊は国民の生命と平和な暮らしを守り抜くため、**訓練を十分に行う必要があります。**
- 訓練の実施に当たっては、**訓練目的の達成のため、また、安全管理に万全を期す観点からも、十分な時間をかけ、事前のブリーフィングや装備品等の準備・点検を行うなど、細心の注意を払い準備**をする必要があります。

## 点検・整備

- 安全管理のみならず、**部隊の即応性を維持する観点からも、訓練後の整備は必要不可欠**です。
- また、**装備品等の物品を適切に管理する観点からも、その紛失・破損等がないように、十分な時間をかけて点検・整備等**をする必要があります。

離島で訓練を実施する際の訓練期間の一例

曜日	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)
訓練日程	訓練準備等 ・ 装備品等の準備・点検 ・ 部隊の移動 ・ 事前のブリーフィング 等			実動訓練			撤収・整備等(予備日含む) ・ 天候不良等による訓練予備日 ・ 装備品等の点検・整備 ・ 部隊の撤収			

※上記は種子島で実施した訓練を参考に作成しています。日数は参考として一例を記載しており、訓練内容等によって異なります。

➡今後、地元の方々に訓練期間をお知らせする場合、**実動訓練の期間のみならず、準備から撤収等の期間を含む場合があります。**なお、訓練の内容等によって準備・撤収等に必要の日数が異なることをご理解ください。